

(8) 経済学教育における学士力の考察

経済学教育FD/IT活用研究委員会は、21年6月、8月、9月、10月、11月の5回開催した。経済学分野では、昨年実施した社会人、企業側からの大学教育への要請・要望のインタビュー結果を踏まえ、学んだ経済知識を社会や組織で活用できる実践力を目指して、身の回りの地域から国レベル、世界レベルの経済的な問題や現象に関心を持ち経済政策を批判的に検討する力、そのためにどのような行動倫理を持つべきかなど高い水準の学習成果を目指した。その上で、サイバーFD研究員642人に意見を求め、58人(9%)の意見反映させ、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

【到達目標1】

日常の経済現象や経済全体の基礎的な考え方や理論を理解できる。

【到達度】

- ① 身の回りから国や世界の経済現象について関心を持ち、深めることができる。
- ② 基礎的な経済用語を理解し、経済現象の動きや仕組みを相互依存関係として理解している。
- ③ 経済現象を他者にわかりやすく説明できる。

【到達目標2】

経済の歴史や制度を理解し、資料を援用して、経済情勢を分析することができる。

【到達度】

- ① 経済の歴史や制度に関心を持つことができる。
- ② 資料を用いて過去の経済現象の流れを理解し、現実の経済情勢を分析できる。
- ③ 歴史を踏まえて今の経済現象を他者に説明できる。

【到達目標3】

経済政策の基礎的な用語や考え方を理解し、経済政策の重要性を理解できる。

【到達度】

- ① 身近な経済生活に影響を与える政府の政策に対して関心を持つことができる。
- ② 経済政策の種類と効果および政府と民間の役割などを理解している。
- ③ 経済政策について他者に説明できる。

【到達目標4】

経済データの意味を理解し、必要なデータを収集・整理して、統計的な処理ができる。

【到達度】

- ① 経済現象の理解に必要な基本的な経済指標やデータに関心を持つことができる。
- ② 統計の理論や技法の基礎を理解し、基本的な統計の情報収集と処理ができる。
- ③ 統計データに基づいて相関関係などの処理結果を他者に説明できる。

【到達目標5】

経済学の知識を統合して、倫理と公共性と責任感を持ち、グローバルな観点から判断できる。

【到達度】

- ① 経済効率と倫理(コンプライアンス、公共性、公平性)とのバランスに配慮することができる。
- ② 経済学の学習成果を総合的に活用し、経済問題を世界の観点から考えることができる。
- ③ 経済学の考え方を基礎にして責任ある選択や意思決定ができる。

(8) 経済学教育における情報教育

経済学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめの後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討では、経済事象及び経済学を学習するために演習等文献・データを検索、情報の信頼性の識別、情報の整理・加工、情報倫理を配慮したプレゼンテーションなどをとりあげた。

【到達目標】

経済事象および経済学の理論、歴史、政策の理解を深めるために、経済データの収集・整理と情報処理・分析を行い、情報倫理の重要性を理解し、自分の意見を発表できる。

【到達度】

- ① 情報検索ツールを用いて文献やデータ・資料などを検索し、情報の信頼性を識別し、必要な情報を収集できる。
- ② 取得した一次情報の意味を読み取り、学習目的に沿って情報を整理・加工処理できる。
- ③ 加工した情報を、アプリケーション・ソフト(表計算、統計ソフト、プレゼンテーションツール等)を用いて、簡単な統計的な分析と情報倫理に配慮した発表ができる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、実習・講義・演習の授業で、Web検索エンジンなど情報検索ツールの使い方、出所が明記されている適切なデータベースなど情報やデータの所在を教え、具体的に情報機器を用いて情報検索・収集をさせる。
- ②は、実習・講義・演習の授業で、収集した一次情報の意味を理解し、分析に必要な資料やデータの形にするために、情報の整理や加工の仕方、グラフや表の作成などを指導する。
- ③は、実習・講義・演習の授業で、表計算や統計分析のソフト、プレゼンテーションツールなどの技法と表現を教える。経済的な事例を使って学生に経済学に対する興味を持たせる教育を行う。また、剽窃や著作権、個人情報に関する情報倫理の適切な指導を行う。

【到達度確認の測定手段】

レポート課題の提出、クイズ、試験(テスト)、プレゼンテーション、論文などにより確認する。